

子育て応援住宅について

佐藤 龍彦



〔質問〕子育て応援住宅は、本市が平成28年に子育て世帯の子育て支援と定住促進のため取得した。しかし、近年は入居率も伸び悩んでいる。現在の子育て応援住宅の入居状況について伺う。

〔答弁〕「建設課長」令和5年2月末現在、全体戸数80戸に対し33戸、入居率41.3%となっている。

〔質問〕入居資格の「義務教育終了前の子どもを1人以上養育していること」という条件を「18歳まで」とすることはできないのか伺う。

〔答弁〕「建設課長」入居資格については、白石市

のチラシを配備している。

また、市営住宅などの

募集の問い合わせなど、建設課へ来庁された方、

電話での問い合わせの際

にも、子育て応援住宅の

説明を行うなど、PRに

努めている。また、住宅管

理を委託している民間会

社もPRを行なっている。

加えて本年4月の不登

校特例校、白石きぼう学

園の開校にあたり、他市

町からの入居に関する問

い合わせも複数件受けて

おり、入居率の向上に期

待している。引き続き他

自治体の事例などを研究

し、住宅管理業者など、

民間のノウハウも取り入

れながら、入居率の向上

に努めていきたい。

その他の質問

◎ごみ出し支援について

◎飼い犬・猫及び鳥類等

のふん書の対策について

◎住宅リフォーム助成に

ついて

財政支出金の削減策について

大森 貴之



〔質問〕市道中河原白石沖線の工事において、水道管の移設工事が一体的に行われているが、個別に行われた場合の経費はどの程度差が生じるのか伺う。

〔答弁〕「上下水道事業所長」舗装復旧にかかる経費が担当課間においての工事調整により削減できたと考える。

〔質問〕道路整備工事において、水道管等の更新工事を組み込ませることができれば、予算の二部が削減されると認識してよいのか。

〔答弁〕「上下水道事業所長」そのような箇所が出てきた場合には、削減につながるかと考えている。

を推奨しているが、本市は隣接市町との連携について、どのように考えているのか伺う。

〔答弁〕「市長」現在、宮城県が中心に作成し、今後、公表予定の県の広域化推進プラン五つの方針のもと、広域連携の推進について積極的に進めていきたい。

〔質問〕各部署で連携しながら経費の重なる部分を一緒に行えば削減できるというシステムを構築していただきたいが、見解を伺う。

〔答弁〕「上下水道事業所長」建設工事においては常にコスト意識を持ち、経費削減に努めている。庁舎内、特に建設部とは常に情報共有を行い、埋設管路の情報や建設部事業との事業調整を行なっており、令和4年度には工事担当課間で調整会議を行なったところである。

〔質問〕宮城県では自治体の水道事業における経営の効率化の観点から、水道事業の広域化